# コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

ヤマハグループは、世界各地で音楽文化の普及・振興に向けた多彩な活動を続けるとともに、一企業市民として社会貢献活動に取り組んでいます。
国内外の拠点を置く各地での地域貢献活動をはじめ、次世代育成への支援、寄付・福祉活動を継続的に実施するとともに、多彩な音楽文化の普及・振興活動のみならず、音楽の力を生かした街づくり事業も推進しています。

## 地域社会とのかかわり

### 地域社会への責任

ヤマハグループは、企業が社会の一員であることの責任を自覚し、よき企業市民として社会に受容される価値観の醸成と行動に努めています。地域社会に及ぼす影響を考慮し、環境負荷の低い操業と、地域の皆さまとの対話を図っています。
各事業拠点で、周辺自治体との情報交換会を定期的に実施し、自治会の意見を伺っています。
事業所の新設や撤退にあたっては、事業所を置く市町の首長にあらかじめ説明・報告するほか、周辺自治体との情報交換会の中でも適時報告・説明し、意見や要望を伺っています。
また、工場撤退などにおいては、周辺への環境影響がないかどうか土壌や地下水の調査を実施し、万が一、汚染などの環境影響が発覚した場合は、浄化・除去措置などの適切かつ速やかな対応を実施しています。

》4-3 社会との調和

### 地域社会におけるコミュニケーション事例

ヤマハグループは、事業所を置く地域社会と日常的なコミュニケーションを図ることで、地域との良好な関係を保っています。

**自治会との情報交換会実施例** （ヤマハ(株)）

| 事業所 | 頻度 | 対象 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 本社事業所 | 年1回 | 周辺の8自治会 | 事業概況報告、要望聴取、意見交換 |
| 掛川工場 | 年1回 | 周辺の7自治会 | 事業概況報告、要望聴取、意見交換 |
| 豊岡工場 | 年1回 | 周辺の3自治会 | 事業概況報告、要望聴取、意見交換 |
| 天竜工場 | 年1回 | 周辺の12自治会 | 事業概況報告、要望聴取、意見交換 |

#### 2018年度事業所・工場でのコミュニケーション例

- 周辺自治会との定期的な情報交換会の開催
- 工場見学の受け入れ
- 地元小学生の地域学習や中・高校生の職場体験・職場訪問の受け入れ
- 地域との交流を目的とした夏まつりの開催
- 災害発生時の施設開放協力の覚書締結
- 地域のイベントや祭典への協力
- 施設・駐車場などの貸し出し
- 地域安全パトロール活動
- 従業員の地域クリーン作戦への参加など地域環境活動への協力
- 自治体主催の総合防災訓練への参加
- チャリティーバザーや募金により、地元の小学校や団体に図書・日用品・お菓子などを寄贈
- 「フードバンクふじのくに」への防災備蓄食料協力
- 自治体などへの楽器貸出やコンサートの実施

周辺自治会との情報交換会（本社）

夏まつり（天竜）

地域クリーン作戦（豊岡）

チャリティーバザー募金による地元幼稚園へ絵本・CDプレーヤー寄贈式（豊岡）

労使共催によるチャリティーコンサート（掛川）

敬老会でのコンサート（掛川）

### グランドピアノの製造工程を一般公開

ヤマハピアノの国内製造拠点である掛川工場では、楽器や音楽の魅力に触れていただくことを目的に、グランドピアノの製造工程を一般に公開しています。

工場見学では、現代のテクノロジーと100年以上続く伝統技能による製造工程の見学と、近代化産業遺産に認定されたグランドピアノなどを展示するショールームの見学とあわせて、ものづくりにおける環境保全活動について紹介しています。2018年度は、11,316人の方にご来場いただきました。

グランドピアノ製造工程見学

ショールームでの展示公開

》ヤマハピアノのふるさと掛川

### 企業ミュージアムの一般公開

2018年に本社構内に建設した新たな研究・開発拠点「イノベーションセンター」の１階に、ヤマハグループの製品・サービスの歴史を展示する企業ミュージアム「イノベーションロード」をオープンしました。同施設は、当社の創業時から現在に至るまでの製品・サービスやその開発の軌跡、未来に向けたビジョンを、音や映像を使って紹介する体感型ミュージアムで、一般のお客さまにもご見学いただいています。オープン以来、地域の方々をはじめ、個人や団体、お取引関連の皆さまなど非常に多くの皆さまにご来場いただき、これまでに約18,000人の方にお越しいただきました。（2019年3月末現在）

イノベーションロードの入り口

展示エリア（ヒストリーウォーク）

》企業ミュージアムのご案内

# 音楽文化の振興

## 音楽家志望者等への支援

ヤマハグループは、世界各国で開催されるピアノコンクールをはじめ、国内外における各音楽コンクールやクリニックなどにおいて、高い芸術性を追求する人々を楽器のサポートのみならず運営面などさまざまな側面から支援し、音楽文化の普及と発展に貢献しています。
また、若手音楽家や音楽家を志し学ぶ方々への支援として、国内外の各地域で奨学制度を設けているほか、音楽教育機関と連携し、教育カリキュラムや指導者向けセミナーを提供するなどの支援も続けています。1983年から始まった「ヤマハ管楽器新人演奏会」では、音楽大学や専門学校から推薦を受けた「新人」演奏家に演奏の場を提供しています。権威のある新人演奏会として広く認知されており、出演者は通算2,000名を超え、現在トップオーケストラの団員やソリストとして活躍したり、後進の育成にあたっている指導者を多数輩出しています。

浜松国際管楽器アカデミー＆フェスティヴァル

ヤマハ管楽器新人演奏会

四川民族学院奨学金（中国）

## 学校音楽教育への支援

ヤマハグループでは国内外の各地域で、学校における音楽教育の支援活動を行っています。楽器のサポートや音楽教師への指導方法の講習、音楽に関する情報提供などを通じて、授業内容の充実に貢献しています。

### ▶ 楽器を演奏する機会を提供する「スクールプロジェクト」

ヤマハは、楽器演奏の楽しさをより多くの子どもに体験してもらうため、2015年より新興国を中心に公立学校に楽器と教材、指導ノウハウをパッケージとして提供する「スクールプロジェクト」を展開しています。
楽器を演奏する器楽教育は、その教育的効果から世界中の学校で広く採用されていますが、中には、設備・指導者不足、指導カリキュラムなどの問題から音楽の授業に導入されていなかったり、質が十分ではない国があります。ヤマハでは、こうした世界中の子どもたちに楽器演奏の機会を提供することで、子どもたちの成長支援のみならず、各国での器楽教育の普及と音楽教育・文化の発展に貢献することを目指しています。
2018年度は、5カ国（マレーシア、インドネシア、ロシア、ベトナム、インド）約23.6万人の子どもたちに器楽教育の機会を提供しました。

》世界の公立学校での「Musuc Time」プログラム
》器楽教育の導入でベトナムの学校授業の充実に貢献
》世界中の子どもたちに、楽器演奏の楽しみを届けたい

インドネシアでの音楽授業

ベトナムでのリコーダーレッスン

**中東・アフリカ地域における音楽教育プログラム**

西洋音楽教育が浸透していない中東・アフリカ地域を営業管轄とする現地法人ヤマハ・ミュージック・ガルフ（以下、YMGF）では、現地事情に合わせた学校教育における音楽普及活動を展開しています。

中東・アフリカ地域も他の地域同様に、学校教育に音楽の授業はあるものの、楽器や指導者、ノウハウの不足などから、授業では歌唱や理論のみで器楽教育は行われていないケースがほとんどです。YMGFでは、器楽教育を通じて子どもたちの情操教育や成長を支援するため、2012年に学校音楽教育普及プロジェクトを始動。現地代理店と協力して、プロジェクトを推進しつつ、各国の教育関係者による日本の小学校の授業視察などを通じ、音楽教育の重要性を訴求しています。

2016年に南アフリカで1校目をスタートしたのを皮切りに、2018年度までに、南アフリカ、ナイジェリア、クエート、UAE、ケニア、モロッコの6カ国63校、延べ約5,100人にリコーダーの授業を実施しました。現在、新たにウガンダで開始準備を進めており、その他の国での展開も模索しつつ、活動の拡大を図っています。

南アフリカでのリコーダーレッスン

ナイジェリアでのリコーダーレッスン

### ▶ 学校吹奏楽クリニック

ヤマハ楽器音響（中国）では、2010年から主要都市を中心とした学校の吹奏楽団を対象に、国内外の講師を派遣して演奏の指導を行うバンドクリニックを実施しています。開催数、参加人数は年々増加しており、2018年度は33会場で開催し、約5,600人の生徒たちが指導を受けました。同時に、一般の音楽教師でも吹奏楽の指導が可能になるよう、吹奏楽指導者講習会を開催するなど、指導者育成にも貢献しています。

深圳市でのバンドクリニック

### ▶ 学校バンドメンテナンスセミナー

韓国では、学校の放課後課外活動としてバンド（吹奏楽）やオーケストラなどの演奏活動が行われています。しかし、とりわけ地方の学校では楽器のメンテナンスについて学ぶ機会が少ないため、せっかく良い楽器を保有しても楽器が傷み、上手く音が出ないケースがあります。

ヤマハ・ミュージック・コリアでは、こうした学校での演奏環境づくりを支援するため、2013年よりオーケストラのある学校へ訪問し、楽器のメンテナンスセミナーや無償修理を行う活動をしています。すでに300校以上の学校を訪問し、メンテナンスをしっかりと行い、楽器を大切にすることの重要性を伝えることで、学校での音楽活動を支援するとともに、韓国の音楽文化発展に寄与しています。

メンテナンスセミナー

楽器メンテナンス

### ▶ 学校音楽教育支援サイト「Music pal」

ヤマハ（株）は、音楽の歴史や楽典、さまざまな楽器について、音楽の授業に役立つ情報がたくさん詰まった学校音楽教育支援サイト「Music pal」を開設しています。また、「楽器解体全書PLUS」サイトでは、各楽器の成り立ちや仕組み、演奏方法など、興味のある楽器について、より知識を深めることができるなど、音楽の授業や調べ学習にも役立つ内容を掲載しています。

≫学校音楽教育支援サイト「Music pal」

## イベントやコンテスト開催を通じた音楽普及活動

ヤマハグループでは、国内外の各地域で、イベントやコンテストの開催を通じた音楽普及活動に取り組んでいます。楽器・音楽を楽しむ幅広い層の方々に音楽の楽しみ方を提案したり、ステップアップを目指すアマチュアミュージシャンへ発表の場を企画・提供しています。

### ハママツ・ジャズ・ウィークの開催

ヤマハ(株)は、本社を置く浜松市などと共催で、毎年「ハママツ・ジャズ・ウィーク」を開催しています。これは、浜松市が推進する音楽を中核にした都市づくり「音楽のまちづくり」事業のひとつとして、1992年にスタートしたものです。「まち中に音楽があり、音楽がまちをつくり出す」ことを目指し、世代を問わず楽しめる「ジャズ」をテーマに官民一体となって企画運営するユニークな地域文化イベントとして、ジャズファンだけでなく多くの方々に親しまれています。

第27回となる2018年は、国内外の超一流アーティストや全国の優秀な学生ビッグバンドが登場してのホールコンサートのほか、豊富なトピックスでジャズの魅力を感じるトークイベント、街角で気軽にジャズを楽しむストリートライブや地域のジャズクラブと連携してのイベント、市内小中学校で行う出前ジャズコンサートなどを開催しました。

学生ビッグバンドの祭典「スチューデント ジャズ フェスティバル」

最終日に開催された「ヤマハ ジャズ フェスティバル」

市内小中学校を舞台に行われた「出前ジャズコンサート」

街中でにぎわう「ストリート ジャズ フェスティバル」

### Asian Beat

ヤマハグループでは、アジア地域におけるポピュラーミュージック振興とアマチュアミュージシャン育成を目的としたアマチュアバンドコンテスト「Asian Beat」を企画、開催しています。各国で行われる地域大会を勝ち抜いたバンドだけが出場できるグランドファイナルでは、アジアNo.1バンドの座を目指して多くの参加バンドが熱演を繰り広げます。

### ブラス・ジャンボリー

ヤマハグループは“演奏する楽しみ”を原点に、管打楽器の愛好者が大きな会場で一堂に会して合奏を楽しむコンサートイベント「ブラス・ジャンボリー」を開催しています。気軽に演奏を楽しみたい人々に演奏の場を提供し、かつての楽器経験者や楽器を始めたばかりの初心者、親子やファミリー、仲間同士での参加など、すべての管打楽器の愛好者を対象に「みんなで楽しむ音楽の一日」を目指して企画しています。10回目の開催となった2019年は、リハーサル前に指揮者・曽我大介さんによる、楽器の魅力を楽しく学べる「吹奏“学”講座 第2弾トロンボーン編」も開講。コンサートでは、小学生から70歳代の650人を超える多世代の参加者が、奏でる喜び、音楽を通した出会いと交流、大合奏の醍醐味を堪能し、それぞれの想いが詰まったスペシャルな大演奏会を会場一体で創り上げました。

》ブラス・ジャンボリー

全員で大合奏

(中央左から)スペシャルゲストのトロンボーン奏者 中川英二郎さんとバイオリン奏者の岡部磨知さん、指揮者の曽我大介さん

### ▶ 管楽器演奏コンテスト

ヤマハ楽器音響（中国）では、管楽器演奏を楽しむ機会の提供として、毎年管楽器演奏コンテストを各地で開催しています。管楽器用に独自に作った伴奏用音源を用いたソロや、アンサンブル演奏を披露するもので、多くの管楽器学習者、愛好者が楽しめる機会を提供しています。2018年度は全国26都市で、約6,200人が参加しました。

上海市での予選

寧波市での予選

## 楽器に触れる機会と場の提供

### ▶ ピアノをもっと身近に ー全国各地でLovePianoを展開中ー

（株）ヤマハミュージックジャパンでは、2017年から、もっとピアノを身近に感じてもらいたい、楽しんでもらいたいという思いから「気軽な演奏の場」を提供する活動「LovePiano」を進めています。この活動は「LovePiano」をテーマに、カラフルにペイントされたピアノを誰でも自由に弾けるピアノとしてオープンスペースに設置したり、ピアノへの想いをウェブで発信したりすることで、ピアノをもっと近くに感じてもらえるようにするものです。これまで、JR山手線の新宿駅、品川駅のほか、大阪国際空港（伊丹空港）などのパブリックスペース全国20カ所、約120日間設置し、延べ15,000人の方に演奏していただきました。

また、この活動では、演奏者にソーシャルメディアで発信する際の共通のハッシュタグ#LovePianoYamaha を提示しています。設置されたピアノを演奏した人と、その場に居合せて聴いた人のTwitterやInstagramから、ピアノへの想いなどがウェブ上に数多く発信され、さらに共通ハッシュタグにより同じ体験をした人たちがつながり、ストリートピアノ（LovePiano）ファンの拡大へと結びついています。

日本では、かつてピアノを演奏していたが今は弾いていないという人が多く、この「LovePiano」を通してピアノに憧れる方だけでなく、ピアノ演奏を再開される方が増えることを願って活動を続けています。

JR品川駅中央改札内 エキュート品川入口での展示（1号機）

原宿キャットストリートでの展示（2号機）

### ▶ 楽器体験イベント「TOUCH & TRY」

ヤマハは、「音楽を奏でる喜びをもっと多くの人たちに感じてもらいたい」をコンセプトに、日本全国のイベント会場やショッピングモールなどで楽器体験イベント「TOUCH & TRY」を開催し、多くの方へ楽器体験の機会を提供しています。楽器への「憧れ層」「休眠層」を中心とした大人の趣味需要層を対象に、2018年度は全国55会場で実施（延べ日数83日）、楽器体験者数は前年の3倍となる約18,000名にものぼり、活動の幅を広げています。今後も、より多くの方に楽器の楽しさを感じていただき、楽器に興味を持つ・楽器店に足を運ぶ・楽器を始めるなどのきっかけづくりを提案していきます。

子どもから大人まで自由に楽器を楽しむ来場者

# 地域コミュニティー発展への寄与

## 音楽を通じた地域貢献

ヤマハグループは各地域での音楽イベントの企画・開催などを通じて、地域への貢献やコミュニティーの活性化に寄与したいと考えています。

### ▶ 音楽の街づくり事業

(株)ヤマハミュージックジャパンでは「音楽の街づくり“おとまち”」プロジェクトを展開しています。おとまちは、音楽が持つ「人と人をつなげる力」を使って、地域の活性化や企業と社会の共有価値の創造をお手伝いする事業です。自治体や企業などが抱えている課題を解決するため、おとまちの仕組みを活用して音楽をツールにした市民参加型のプロジェクトやイベント、街づくりのためのプログラムを提案・支援します。

ヤマハが目指すのは、持続可能な社会基盤となるコミュニティーを自立させることです。おとまちでは街づくりの初期段階を重点的に支援し、地域の方々が自由に参加して継続的に活動できる場や時のスキームの構築を通じて、新しいかたちの社会貢献型事業を推進しています。

2017年度からは、復興庁の推進する「心の復興」事業に株式会社NTTドコモと連携して活動を展開。2018年度は釜石市のNPO団体「ガバチョ・プロジェクト」と協働し、被災者の参画による「心の復興事業」を推進しました。三陸地域を支援すると共に、地域コミュニティリーダーの創出を目標にした、ドラムサークルによるファシリテーターの育成活動に取り組んでいます。

》音楽の街づくり事業

定禅寺ストリートジャズフェスティバル「スウィング・カーニバル」

ふなばし森のシティ「フォレストシティビッグバンド」

「かしわファシリテーター育成講座」

復興庁「心の復興」支援プロジェクト

### ▶ ヤマハ吹奏楽団による地域貢献

1961年に創部したヤマハ吹奏楽団は、ヤマハグループの従業員によって構成されたアマチュアバンドです。定期演奏会やポップスコンサート、ヤマハ野球部の野球応援、国内外の各種公演・コンクールへの出場といった定期活動のほか、「浜松まつり・ミニコンサート」や浜松駅前の「プロムナードコンサート」に出演するなど、地域に根差した活動にも積極的に取り組み、浜松市が推進する「音楽の都づくり」に協力しています。

浜松まつり「ミニコンサート」

プロムナードコンサート

》ヤマハ吹奏楽団ウェブサイト

## 音楽普及活動による青少年育成支援

ヤマハグループでは、音楽、楽器を通じた地域貢献や音楽普及活動により、青少年の健全育成や音楽教育文化の発展に寄与しています。

### ▶「AMIGO Project」による支援活動

若者の犯罪や非行が深刻な中南米の多くの国で、犯罪や貧困、格差が深刻な社会問題となっています。こうした環境に育つ子どもたちが犯罪・非行・暴力に走ることなく健全な精神を育めるよう、国の政策として無償の音楽教育活動が進められ、各地で青少年育成のためのオーケストラやバンドが結成されています。ヤマハはこの活動に賛同し、多くの子どもたちが参加するこの活動を長年にわたり支援してきました。

2014年からは「AMIGO Project」をスタートさせ、支援活動をさらに強化しています。同プロジェクトでは、現在5カ国（メキシコ、コスタリカ、パナマ、コロンビア、ブラジル）を対象に子どもたちが自分の力で楽器をメンテナンスできるようにワークショップを開催するほか、楽器の修理に対応できる技術者の育成を推進するなど、より良い環境で子どもたちが演奏を続けられるようにサポートしています。

》音楽の力で青少年の育成を支援

青少年育成オーケストラ・バンド団体（メキシコ）

### ▶「ソプロノーボ」によるリコーダー音楽普及セミナー

ヤマハ・ムジカル・ド・ブラジル（YMDB）は、2005年にSopro Novo（ソプロノーボ：新しい息吹）という活動を開始し、全国で音楽指導者を対象としたリコーダーを使った音楽普及セミナーを展開しています。

このセミナーは、楽器・教本・指導メソッドをトータルで提供する音楽指導者のための指導法レッスンです。読譜に始まり、最終的にはアンサンブル演奏を楽しむまでの楽器演奏技術を習得でき、レッスン修了後には初心者に対する音楽指導を始めることができます。義務教育課程で音楽教育体制が整っていないブラジルにおいて、多くの子どもたちに「初めての音楽学習」を提供する貴重な機会となっています。これまで13年間に全国189都市で1,600回以上のセミナーを開催し、4,700人もの指導者を養成。そうした指導者に教わる子どもたちは55万人以上にのぼります。

2017年には、非営利団体Fundação Sopro Novo Yamahaを設立し、政府に直接音楽教育の導入を訴求するとともに、公立学校での指導者研修、音楽教育指導に向けての活動を始めました。

2018年には、リオデジャネイロ市の教育プログラムに参加し、82名の講師にリコーダーセミナーを実施したほか、サンパウロ州からはSopro Novoのこれまでの活動が認められ、税制優遇措置として活動費用のサポートを受けています。

リオデジャネイロの教育プログラムでのリコーダーセミナー

リコーダーを学ぶ子どもたち

# 次世代育成への支援

## 見学・実習への協力

ヤマハグループは、地域貢献活動の一環として、事業拠点を置く世界各地域の教育機関などからの要請を受けて、職場体験学習やインターンシップ、工場見学の受け入れに応じています。

### ▶ 職場体験学習の受け入れ

中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップなどの受け入れを通じて、次世代を担う若者たちに就労体験機会を提供することで、若者たちが将来働く意欲と目標を持つことに寄与しています。

生産現場での高校生インターンシップ

販売店での中学生の職場体験

### ▶ 高校新卒生に向けた職業訓練

ヤマハ・ミュージカル・プロダクツ・インドネシア（YMPI）では、高校新卒生に対して職業訓練を実施しています。これは、社会人になるための教育の充実を課題とする同国の政府機関と高校からの依頼によるタイアップ企画です。

社内のトレーニング施設で、工場における基本作業をはじめ、社会人としての心得、5S※・安全衛生・改善・コミュニケーション・交通安全に至るまで、自社の従業員教育と同じレベルの講習を施しています。YMPIの5Sや従業員教育は地域で高い評価を受けており、この職業訓練も行政・学校の双方から高く評価されています。2018年度までに17校1,849人が体験しました。そのほか、高校生・大学生の職場体験や工場見学も積極的に受け入れています。

また、これらの学校に対して、定評のあるYMPIの基礎教育「Yamaha Class」も実施。これは社会人としての心得や5Sの大切さ、規律遵守、勤勉の必要性などの基礎教育について、各学校で直接先生から指導してもらう試みです。実施にあたっては、YMPIのポリシーについて先生方に伝授すべく、教育を実施しています。このようにYMPIの教育方針が、インドネシアの将来を支える若者たちのための基礎教育になろうとしています。

※ 5Sとは職場のマネジメント用語で「整理・整頓・清掃・清潔・躾」を指す

現場実習

講義の様子

学校の先生たちへの「基礎教育の伝授」のための講義

## 学習施設への展示協力

ヤマハは、「科学する心」を育む場として1986年に開館した浜松科学館（静岡県浜松市）の展示に開館時から協力しています。同館は、地域を代表する企業の協力により常設展示を全面的に更新し、2019年7月にリニューアルオープン。アクティブラーニングの観点を重視した大人も子どもも共に科学を楽しみながら学習できる体験型ミュージアムとして生まれ変わりました。

リニューアルに伴い、ヤマハでは以下の協力を行いました。

「音のコーナー」への協力内容

| 名 称 | 内 容 |
|---|---|
| 響きの変わる部屋 | 電気音響信号処理技術を活用した展示物を寄贈。室内の響きや空間の拡がりなどをコントロールする音場支援システム（AFC：Active Field Control）が組み込まれたブース内で、「山びこ」「洞窟」「教会」の異なる場所を選択すると、前面のプロジェクターにシーンに合わせたイメージ映像が映し出され、手を叩いたり、声を出したり、楽器を鳴らしたりして、音の響きや聞こえ方の変化を体験できる。 |

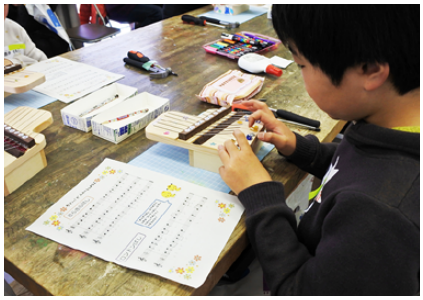
## 子どもたちへの教育支援

ヤマハグループでは、子どもたちの育成を支援するさまざまな活動を行っています。毎年、地元自治体・教育機関などからの要請に応えて、出張授業の開催や「ものづくり」をテーマとした子ども向けプログラムを提供しているほか、ヤマハ野球部による少年野球教室などを開催しています。

### ものづくり教室や出張授業の開催

ヤマハ（株）では、年間を通じて、地域の教育機関と連携して、子ども向けのものづくり教室を開催しています。ダンボールやつまようじなど身近な素材を使って一本弦のギターをつくる「手づくりギター教室」、ピアノやマリンバの製造工程で出た端材からアフリカの民族楽器「カリンバ」をつくる「カリンバづくり教室」、楽器に愛着を持ってもらえるよう常に持ち歩けるようにとキーホルダーサイズに仕上げた「ミニ鳴子教室」などを実施し、子どもたちに楽器を通じたものづくり体験の場を提供しています。
また、地元自治体や教育機関からの要請に応じて、リコーダーや管楽器のユニバーサルデザイン（UD）をテーマにした出前授業も行っています。

手づくりギター教室


カリンバづくり教室

ミニ鳴子教室

ヤマハ発動機（株）と共同で開催したものづくり教室

リコーダーをテーマとした出張授業

“管楽器のユニバーサルデザイン”をテーマとしたUD出前授業

### ピアノの端材を子どもたちの積み木へ有効利用

（株）ヤマハミュージックマニュファクチュアリングでは、地元の掛川市、袋井市、磐田市、浜松市などの幼稚園や保育園、小学校、公共施設などに、ピアノの製造工程で出た木材の端材を積み木として提供しています。1998年頃から続くこの取り組みは、地域貢献と同時に廃棄物の有効利用に役立っています。
このほかの端材の用途として、工作材料を取り扱う地元企業への販売、マウスパッドや靴べら、便利椅子などに加工して夏まつりなどで地域の方々に提供するほか、ヤマハ（株）で開催する子ども向けものづくり教室で使用する工作キットに加工して提供しています。

端材を使って工作

端材の積み木で遊ぶ子どもたち

### ヤマハ野球部による少年野球教室

ヤマハ野球部は、スポーツを通じた地域貢献・青少年育成支援として、地元静岡県西・中部地域の少年野球チームを対象に2000年から野球教室を開催しています。投球時の体重移動の技術、ステップの位置、内野・外野守備の基本姿勢、連携プレー、打撃時のバットの使い方など、基本となる技術をヤマハ野球部員が手本を示しながら指導するもので、健康で元気な野球少年を育て、子どもたちの夢や成長を応援する目的で実施しています。2016年度からは、浜松市が取り組む「トップアスリート連携事業※」にも協力し、中学生バッテリーへの指導を実施しています。2018年度は、静岡県内3市5会場で実施、89チームから計1,165人（女子選手増）の小・中学生が参加しました。
また、ヤマハ野球部OB会を中心とした「ジュニア野球を指導する会」による「野球検診」も同時に実施しています。故障を訴える子どもたちを対象にスポーツ専門医が検診を行うことで、子どもたちの怪我や故障防止の一助となるよう取り組んでいます。

※2016年度から浜松市が取り組む事業で、地元のトップアスリートを各競技団体や学校に派遣してスポーツ教室を開催するもの。トップアスリートの技術や経験を指導することで、次世代のアスリートの発掘、スポーツ実施者などの増加につなげることが目的

野球教室

野球検診

## ICTによる教育ソリューション

学校教育におけるICT化が年々進んでいます。日本では文部科学省が2020年までに全国の学校で1人1台のタブレット端末導入を目指すなど、学校教育現場でのICT活用が盛んになりつつあります。ヤマハではこのICT化の動きの中で、教育現場に新しい学びの提案をしています。

「ソプラノリコーダー授業」教材画面

### ICTを用いた音楽教育ソリューション「Smart Education System」

ヤマハ（株）は2014年より、学校の教育現場にICTを活用した音楽教育ソリューションを提案する「Smart Education System（SES）」を展開しています。
長年培ってきた音楽に関する技術や音楽教育に関するノウハウを生かし、全国の小中学校の協力のもとに実証授業を重ねてデジタル音楽教材を開発。2017年2月発売の「ボーカロイド教育版」、「ギター授業」、「箏授業」を皮切りに、「アルトリコーダー授業」や「合唱練習」、「ソプラノリコーダー授業」などを発売し、高い評価を得ています。
これらは主に小中学校を対象とした教材で、教材本体だけでなく、学習指導要領を踏まえた授業の進め方や教える際の留意事項、また演奏に必要な基礎知識を学べる動画をパッケージにまとめ、現場の先生方が使いやすいような工夫をしています。これに沿って授業を進めることで、子どもたちの創造性や論理性を育むのと同時に、先生はより容易に効果的な指導が行えます。
ヤマハは、「Smart Education System」を通じて、こうしたデジタル音楽教材の提供のみならず、今後は楽器やネットワーク機器、クラウドサービスや人的サポートも含めた包括的なソリューションを提供することで新しい時代の音楽教育をサポートしていく予定です。

副教材＜書籍＞

### ▶ ウェブ会議システムを活用した遠隔授業

教育現場でICT化が進むにつれて、学校間での合同授業や、姉妹校での交流会、過疎地での専門講師不足を補うための協働授業などに遠隔授業が取り入れられるようになりました。文部科学省による高等学校教育現場の「遠隔授業による単位認定」の流れもあり、今後さまざまな形で遠隔授業が増えると予想されます。
ヤマハでは、遠隔会議用スピーカーフォンなどの音声コミュニケーション機器を活用した遠隔授業を、各県教育委員会や教育機関、他社と連携をしながら推進しています。

英語の授業でタブレット端末と遠隔システムを用いた英会話を実施（茨城県古河市立第一中学校）

ICT活用発表会（福島県新地町立駒ケ嶺小学校）

# 寄付・福祉活動

## 従業員のボランティア活動の促進

ヤマハグループでは、従業員の積極的なボランティア活動への参画を推進しています。各種制度の整備とともに、イントラネットなどを通じて活動機会の情報を提供するほか、活動事例についての情報を発信しています。

### ▶ 従業員による自発的な慈善活動

ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカは、従業員による自発的な慈善活動「ヤマハ・ケアーズ」を2003年に発足しました。寄付、募金、自社製品の提供などを通じて、従業員が暮らし、働く地域社会への貢献を目指しています。中でも、小児糖尿病の治療を研究する小児病院への寄付活動は毎年、従業員自らが南カリフォルニア・ハーフマラソンに参加して募金を呼びかけ、累計11万ドルを突破。小児糖尿病の治療を研究する数少ない施設である同病院を支援し続けています。

**「ヤマハ・ケアーズ」の主な活動**

- 小児病院への寄付
- 知的発達障害を持つ子どもたちに楽器演奏体験を提供する放課後スクール（United Sound社運営）への寄付・自社製品寄贈
- アメリカがん協会などを支援する活動「Making Strides Walk」への参加

≫United Soundウェブサイト（英語）

≫アメリカがん協会ウェブサイト（英語）

≫「Making Strides Walk」（英語）

ハーフマラソンで集められた募金をCOCH（Children's Hospital of Orange County）に寄附

各種団体に、募金活動や自社製品を寄付

## 地域における福祉・支援活動

ヤマハグループでは、地域の学校や団体への楽器の寄贈など、地域に根ざした福祉活動を実施しています。

### ▶ 農民工学校への楽器寄贈

ヤマハ楽器音響（中国）では、設立10周年を機に、中国における事業の発展と地域への感謝をこめて、2013年度から5カ年計画で、中国の製造現地法人4社や主要特約店とともに中国各地の農民工学校などに楽器を寄贈しています。
学校の音楽授業用に楽器やAV機器製品などを寄贈することで、より多くの子どもたちに音楽に触れる機会を提供し、その素晴らしさを伝え、豊かな感性を育んでもらいたいという思いで続けています。2018年度は、地方都市の特約店との関係強化や地域貢献の拡大を目的に、5都市5校、合計50万元の楽器寄贈を実施しました。この5年間の累計寄贈校は55校に達し、合計寄贈相当額は470万元となりました。

**主な楽器寄贈実績**

| 日程 | 場所 | 対象校数 | 寄贈内容 |
|---|---|---|---|
| 2013年 3月 | 上海 | 2校 | ピアノ2台、ポータブルキーボード40台、AV製品2台 |
| 2013年 9月 | 北京 | 2校 | ピアノ2台、ポータブルキーボード72台、AV製品2台 |
| 2013年10月 | 天津 | 7校 | ピアノ7台、ポータブルキーボード210台、AV製品7台 |
| 2013年12月 | 杭州 | 18校 | ピアノ15台、電子ピアノ13台、ポータブルキーボード360台、AV製品18台 |
| 2014年 5月 | 蘇州 | 5校 | ピアノ5台、ポータブルキーボード150台、AV製品5台 |
| 2014年10月 | 広州 | 2校 | ピアノ2台、ポータブルキーボード70台、AV製品2台 |
| 2015年 5月 | 上海 | 2校 | ピアノ2台、ポータブルキーボード60台、AV製品2台 |
| 2015年12月 | 杭州 | 5校 | ピアノ5台、ポータブルキーボード150台、AV製品5台、PA機器 |
| 2016年 4月 | 青島市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2016年 9月 | 義烏市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2016年11月 | 六安市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2016年12月 | 平頂山市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2017年 3月 | 北京市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2017年 6月 | 成都市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2017年10月 | 済南市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2018年5月 | 瀋陽市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2018年6月 | 南通市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2018年10月 | 西安市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2018年11月 | 蘭州市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |
| 2018年12月 | 銀川市 | 1校 | 10万元相当の電子キーボード |

楽器贈呈式（銀川市）

寄贈したポータブルキーボード

### ▶「フードバンクふじのくに」への防災備蓄食料協力

「フードバンクふじのくに」は相互扶助の社会づくりを目指す団体で、企業や個人から、まだ安全であるにもかかわらず処分されてしまう食料の寄贈を受け、生活困窮者など支援を必要としている人々に適切に配る仕組みを構築・運用しています。ヤマハグループは同団体の趣旨に賛同し、静岡県内の各事業所に備えている災害用備蓄食料を、入れ替え前に同団体へ寄贈しています。

### ▶ 被災地支援の取り組み

ヤマハグループでは、東日本大震災の被災地・被災者への支援として、特約店を通じた教育楽器などの製品提供や各種チャリティーコンサートの実施、「こどもの音楽再生基金」を通じた取り組みのほか、ヤマハ吹奏楽団による東北各地での復興祈念チャリティーコンサートなどを実施してきました。現在も同楽団で発売しているCD売上金の一部を日本赤十字社を通じて被災地に寄付するなど、復興支援活動を続けています。

》ヤマハ吹奏楽団

## 環境に配慮したイベント開催と地域貢献

### ▶「ヤマハレディースオープン葛城」開催を通じた地域貢献

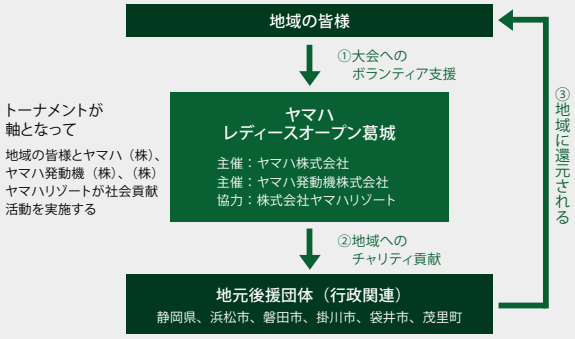
ヤマハ(株)とヤマハ発動機(株)は、葛城ゴルフ倶楽部(静岡県袋井市)において、毎年4月に女子プロゴルフトーナメント「ヤマハレディースオープン葛城」を共同開催しています。同大会では、地球温暖化対策として、来場者への公共交通機関利用や相乗りの呼びかけ、ゴミの回収や分別、リサイクルPETボトルや間伐材で作った割り箸の使用など、廃棄物の削減や資源の有効活用など環境に配慮したさまざまな取り組みを実施しています。今年は、マイクロプラスチック汚染対策として、昨年大会までギャラリー全員に配布していたナイロン製のオリジナルショルダーバックの配布を中止しました。
運営面においては、全国から集まった延べ1,239人のボランティアスタッフをはじめ、ヤマハ(株)およびヤマハ発動機(株)グループの新入社員、総勢424人が大会運営スタッフとして参加したほか、近隣地域の多くの方々と地元自治体の協力によって支えられています。
こうした地域の方々への感謝と協力関係の維持・発展への願いをこめて、2008年の第1回大会から、大会を後援してくださった地元自治体へ寄付金の贈呈を行っています。2019年4月の大会では、静岡県および5市町に、それぞれ100万円、合計600万円を寄贈しました。これらの寄付は、スポーツ施設の整備や、ボランティア活動専用車の購入など、地域活性、社会福祉などの活動に役立てられています。なお、これまでの寄贈総額は6,500万円となりました。

ゴミ分別のためのエコステーション

2019年大会のボランティアスタッフ

大会表彰式の後に行われたチャリティ贈呈式

**ヤマハレディースオープン葛城のチャリティ構造**



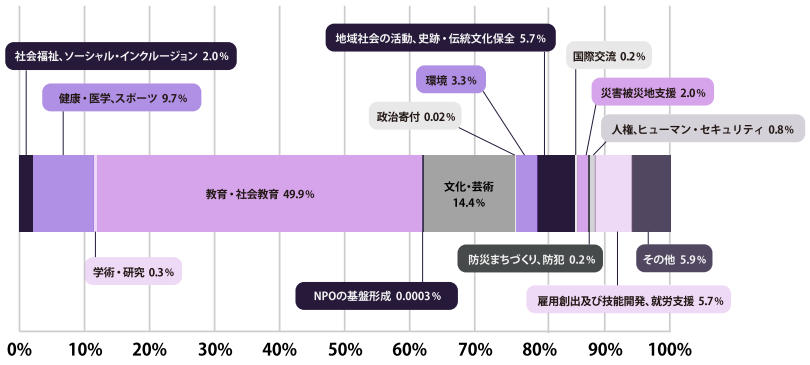
# 社会貢献活動支出について

音・音楽文化の普及と発展につながる活動をはじめ、地域や福祉への貢献など、ヤマハグループが2018年度に支出した社会貢献活動費用は、5億7,381万円でした。

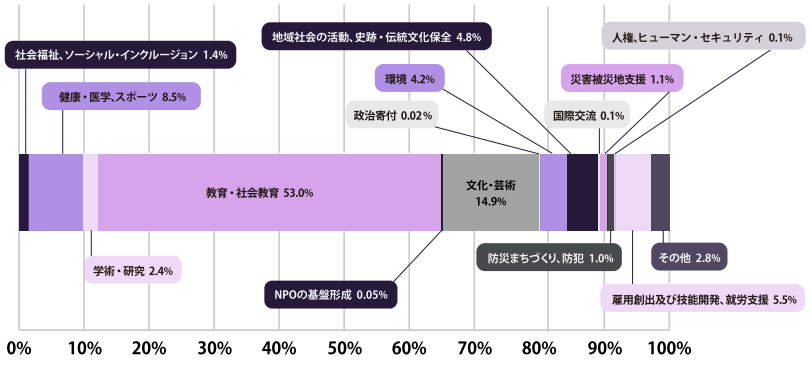
※上記支出には、一般財団法人ヤマハ音楽振興会による事業は含まれておりません

## 社会貢献活動支出額

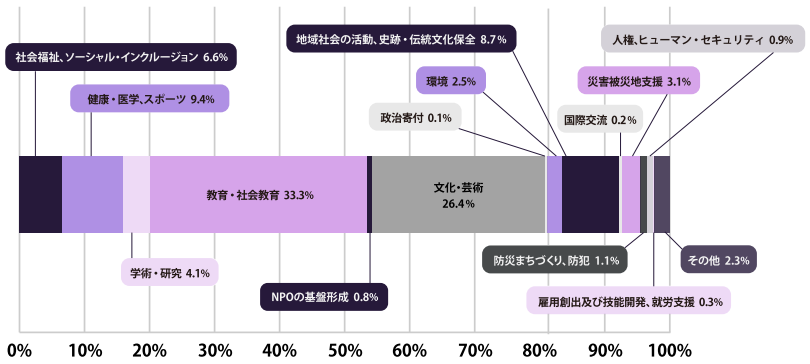
### 2018年度：5億7,381万円




### 2017年度：5億9,126万円

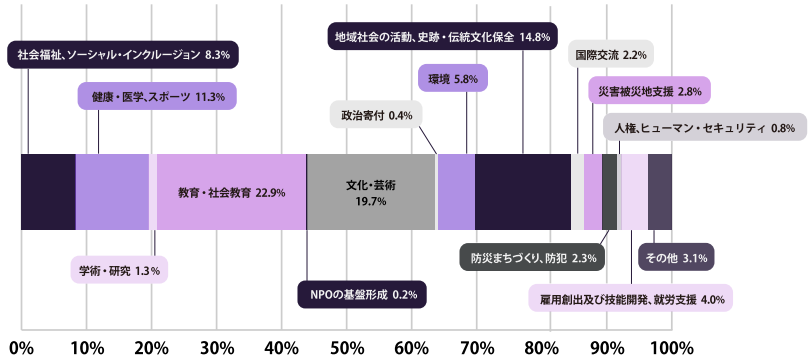



### 2016年度：4億7,321万円

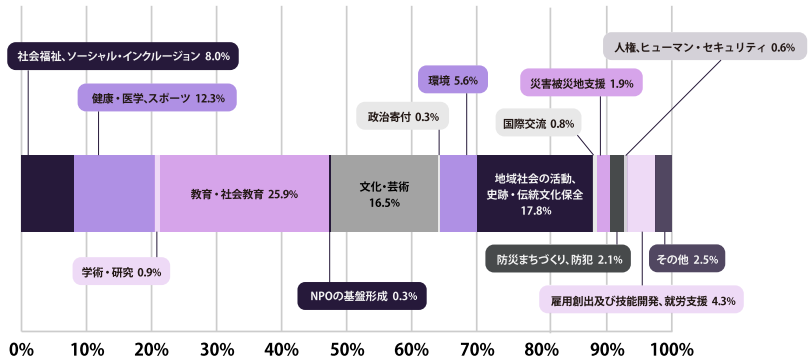


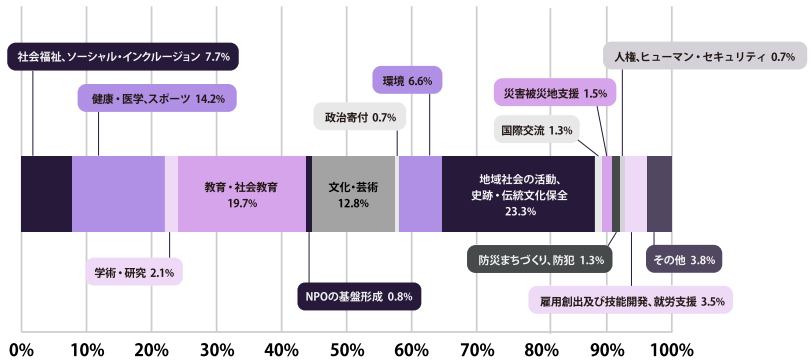
# 社会貢献活動件数

## 2018年度:920件




## 2017年度:875件




## 2016年度:712件